

学校法人 米田学園 米田柔整専門学校

学校関係者評価報告書

(令和4年度)

<<評価項目一覧>>

- 1 教育理念・目標
- 2 学校運営
- 3 教育活動
- 4 学習成果
- 5 学生支援
- 6 教育環境
- 7 学生の受入れ募集
- 8 財務
- 9 法令などの遵守
- 10 社会貢献・地域貢献

令和4年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人 米田学園 米田柔整専門学校 学校関係者評価委員会は「令和4年度自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告する。

1. 学校関係者評価委員

業界関係：森川伸治

卒業生：杉浦光幸

加納功詞

有識者：森 虹輝

2. 令和4年度 自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	評 価	評価に対する今後の学校の取組み
教育理念・目標	学校の教育理念である佛手仏心を軸として、外傷のスペシャリストとしての柔整教育とともに、患者さんを診察することのできる医療人としての鑑別能力も併せ持つことで地域医療の一端を担う柔道整復師を育てていって欲しい。	理念に基づいてカリキュラムを策定しているが、時代の変化とともにカリキュラムの見直しも必要となってきた。別表の部分から今後見直しを検討していく。
学校運営	BSC 会議を定期的実施してビジョンをもとに具体的な PDCA を回しているの、今後も継続して改革を進めてほしい。業界からの声としては基本的な部分である施術録へ記載することを教育段階から徹底して実施していただきたい。	BSC 会議は継続して実施していく中で、今後は理事長ともさらに密に連携を取り、トップダウンとボトムアップの両方の機能を充実させていきたい。施術録への記載の徹底については臨床実習を中心に学生に指導していく。
教育活動	教育の到達目標が提示されていることは非常に良いことだと思う。米田柔整の伝統を引き継ぎつつも、新たな時代に合わせた教育内容も必要となってくるため、柔軟な姿勢で改善を進めていって欲しい。	到達目標は掲げたものの、まだ十分に浸透していると言えない。今後も到達目標を共有しつつ、米田柔整ならではの教育を追求していきたい。またコロナ禍で制限されていた活動も積極的に再開していきたい。
学習成果	国家試験が非常に難解であったため国家試験合格率が非常に低い結果であったのは残念である。次年度に向けて課題を抽出し、改善を図っていただきたい。また退学率が高いことも問題と考えるため、学校全体として早急に手を打って退学率の低減に着手すべきである。	国家試験については全体的な学力低下の波がある中で、今後も苦戦が予想される。仕組みの部分での改善なども考えていく必要性を感じている。退学率の高さも同様に大きな問題として捉えているため、定期的に話し合う場を設けて退学率改善に努めていきたい。
学習支援	外部職員による学生相談窓口を設置されたことは大いに評価できる。各種ハラスメントに対しても防止策を講じて、時代に取り残されないようにしてもらいたい。	学生相談窓口は必要に応じて学生に利用していただく。また日頃の学生とのコミュニケーションが大切であるため、時代に応じた形での教育、指導が実施できるように教員も進化していかなくてはならない。
教育環境	電子教科書など ICT 化の波はやってきているため、時代を見据えて電子教科書の導入などを検討すべきと考える。	電子教科書の検討は以前から行っていたが、著作権の問題などもありまだ導入には踏み切っていない状況である。時代の流れからすると必須となってくるため、著作権の問題などの対応策を協議して導入する方向で話を進めていきたい。

学生の受入れ募集	学生募集は好調を維持しているため、質の高い学生を引き続き選抜していただきたい。学力も大事だが、柔道整復師になりたい熱意のある方を招き入れてほしい。学生目線でのオープンキャンパスなどは参加する人にとっては非常に楽しめるのではないかと思う。	質の高い学生を確保するという目標の下で多くのが入学希望者を不合格にした実績もあるため、今後マイナスイメージが残らないように対応をしていかなくてはならない。学生オープンキャンパスは参加者からも好評でこれからも続けたいが、運営を学生任せにすると負荷が大きいので職員も積極的にかかわる中で運用していくこととする。
財務	定員を充足させて、退学者を減らせば財務は安定してくると考えるため、その2点についてしっかりと方策をたてて、実行してくべきである。	まだまだ黒字化できていないため、黒字運用がしっかりと行えるように定員の充足と退学率の低減に取り組む所存である。また光熱費を節約するなど地道な取り組みも行っていく。
法令などの遵守	自己評価を実施し、常に改善を繰り返すことで良い学校運営が行われている。今後は第3者評価なども取り入れて更に多面的な評価を実施されると良い、	数年後には第3者評価の実施も視野に入れていくべきであると考えている。柔整の業界にも第3者評価機構が誕生したので、その評価に向けて準備を進めていきたい。
社会貢献	米田道場における柔道教室は地域貢献に一役買っているため引き続き実施してもらいたい。その外にも地域清掃などボランティア活動は推奨して行って欲しい。	米田道場の柔道教室は引き続き継続する。その外にも転倒予防教室など地域の方々に役に立つ取り組みを今後は検討していきたい。

【総評】

新型コロナウイルスの影響が残る中、徐々に活動が再開できたことは喜ばしいことである。

しかし、国家試験漏洩問題という非常に残念な事件が発覚し、その影響を受け、多くの学生が国家試験で涙を飲んだことは非常に遺憾である。次年度の合格に向けて是非とも支援をお願いしたい。学生募集は好調であったが、今後少子化も進む中で入学希望者の減少は考えられるため、常に新しい展開を考えておく必要がある。業界としても柔道整復師の魅力をもっと高めて発信していけるように現場レベルでも精進していきたい、学校、業界がさらに連携して柔整を盛り上げていくことを期待する。